



第99号

平成21年7月20日  
新潟県特別支援教育研究会  
事務局：新潟市中央区  
白山浦1-207-3  
新潟市立鏡淵小学校内  
発行：文久堂

### 小・中学校の課題

二つの視点から



新潟県特別支援教育研究会 会長  
吉田 俊雄

特別支援学校の児童・生徒数が急増している。文科省が実態をまとめ新聞に公表した。

それによると、ここ十年で、28・5%増加した。特別支援学校では教室・教員が不足し、学校・自治体は対応に苦慮している。その急増の背景として、「発達障がいの子が増えている」「保護者が子ども障がいを受け入れ、専門教育を望むようになった」「保護者に特別支援教育への理解が深まった」などと報じている。さて、県内においても、特別支援学校では高等部への進学希望者の増加。また、小・中学校の通常学級で特別な支援を必要としている児童・生徒の増加、さらに特別支援学級、通級指導教室の増設が毎年続いている。特に小・中学校では、担当する

教師の確保の困難、それと連動して、この教育がこれまで築いてきた理念や指導の方法等の継承が危ぶまれている。

そこで、この2つの課題に絞って改善への視点を述べる。

#### ①すべての教師が支援教育を

小・中学校のどの学級にも特別な支援を必要とする児童・生徒がいる。このことは、ほとんどの教師が既に特別支援教育にかかわっていることになる。つまり、特別支援教育は一部の教師に任せられた教育ではなく、通常の支援学級担任を問わず、すべての教師に特別支援教育の研修を義務付けるしくみを早急につくる必要がある。特別支援教育の指導技術を身に付けることは、教師として当然のことである。

あり、避けて通ることはできない。教育は、どのような状況下においても、目の前の子どもの実態から始まる。つまり、子ども一人一人の実態に違いのあることを認識し、その実態に応じた指導ができるか、である。

#### ②指導内容・方法の見直し

まずは、特別支援教育の学習指導要領を熟読してほしい。この教育の入口である。その上で、学校の支援学級等の教育課程が、子ども一人一人の生活に結びついた指導内容を用意しているか、それを教科別、合科的扱い、領域別領域・教科を合わせた指導形態等に、きちんと整理されているかを見直す作業が急がれる。

特に、学校教育法施行規則第七十三条の一九一教育課程編成の「例」や同二十、同二十一の趣旨を十分に理解し、教育課程の改善を望む。

子どもは最も信頼している人の模倣をされると言われる。教師が子どもに愛情をもつて接すれば子どもも教師に心を開き語りかける。子どもの心の奥にある目には見えない心情を感じとれる教師でありたいと常々願っている。今年度の各地区研究大会に、四年に一度開催の佐渡地区も加わる。研究部研修会も併せて、熱のこもった実践発表が期待される。今年度も当会の充実・発展のために、よろしく願います。

### 平成二十一年度

### 主な行事予定

- 五月 第一回理事・評議員会
  - 六月 各研究部研修予定集約
  - 七月 会報99号発刊
  - 八月 関プロ埼玉大会（6日）  
上越地区特別支援教育研究大会 妙高大会（20日）
  - 十月 全特連全国大会山形大会（29・30日）
  - 十一月 佐渡地区特別支援教育研究大会（11日）  
中越地区特別支援教育研究大会 見附大会（18日）  
下越地区特別支援教育研究大会 村上・岩船大会（18日）
  - 二月 第二回理事会  
会報100号発刊
- 各研究部の研修は、それぞれの研修計画に沿って実施する。

平成二十一年度  
県特支研役員

(敬称略)

会長

吉田 俊雄 (新潟市立養護)

副会長

西山 康春 (南本町小)  
金子 周一 (三条小)  
大野 俊哉 (県立高田養護)

理事

高澤 誠一 (新井中央小)  
小暮 哲郎 (大洲小)  
笠井 博 (千手小)  
小野塚正春 (北辰小)  
菱田 由美 (鏡淵小)  
高橋 雄一 (小針小)  
小林 満 (石山中)  
成田武比古 (外ヶ輪小)  
長谷川義郎 (新津第一小)  
佐野 一彦 (県立村上養護)  
高橋 晃 (県立小出養護)  
藤村 修 (新大附属特別支援学校)

会計監査

高橋 守 (糸魚川小)  
池田 清治 (新町小)  
高橋 信 (燕東小)

平成二十一年度  
県特支研評議委員

(敬称略)

上越地区 関谷 廣一 (大潟町小)  
上越地区 辻川 英夫 (清里中)  
柏崎・刈羽地区 山崎 光隆 (松浜中)  
柏崎・刈羽地区 和田 英史 (半田小)  
糸魚川地区 伊野 啓一 (大和川小)  
妙高地区 三田 吉夫 (斐太北小)  
長岡・三島地区 小林 詞子 (栖吉小)  
長岡・三島地区 西脇 雅信 (大島中)  
三条地区 八幡 和男 (第一中)  
三条地区 福島 光 (長沢小)  
燕・弥彦地区 海藤 秀紀 (燕西小)  
加茂・南蒲地区 米山 忠彦 (加茂小)  
見附地区 柳 久雄 (今町小)  
小千谷地区 金沢 壽一 (小千谷中)

十日町・中魚地区 石塚 彰雄 (川治小)  
十日町・中魚地区 桑原 正 (津南小)  
魚沼・川口地区 笠原 正 (広神西小)  
南魚沼地区 保坂 吉俊 (湯沢中)  
新潟市北区地区 早川 幹雄 (葛塚東小)  
新潟市東区地区 駿河 仁志 (木戸小)  
新潟市中央区地区 菊池 秀夫 (紫竹山小)  
新潟市江南区地区 遠藤 宜秀 (亀田中)  
新潟市秋葉区地区 齋藤 進一 (結小)  
新潟市南区地区 山崎 秀一 (庄瀬小)  
新潟市西区地区 古瀬元由貴 (立仏小)  
新潟市西蒲区地区 袖山 兼一 (巻南小)  
新発田・北蒲地区 小林 幹雄 (紫雲寺小)  
新発田・北蒲地区 佐藤 秀夫 (蓮野小)  
胎内地区 浮須 洋子 (きのと小)  
村上・岩船地区 本間 直也 (関小)  
村上・岩船地区 工藤ひとし (朝日中)

平成二十一年度  
県特支研事務局

事務局長 今井 真悟 (鏡淵小)  
事務局 風間 昌幸 (鏡淵小)  
時田 浩子 (鏡淵小)  
佐藤 昇 (鏡淵小)  
中野 祐子 (鏡淵小)  
羽田 英子 (鏡淵小)

五泉地区 塩谷 新一郎 (五泉北中)  
阿賀野地区 保科 徳久 (京ヶ瀬小)  
東蒲原地区 佐藤 雅 (上条小)  
佐渡地区 (小) 松田 正実 (加茂小)  
佐渡地区 (中) 佐々木卓郎 (真野中)  
県立新潟盲学校 (視) 小西 明  
県立新潟聾学校 (聴) 山田 由美子  
県立柏崎養護学校 (病) 上野 秀樹  
県立上越養護学校 (肢体) 赤松 雅史  
見附市立見附養護学校 (知) 小山 真樹

**平成21年度  
各研究大会の紹介**

**◆各地区研究大会の開催**

○上越地区特別支援教育研究大会  
妙高大会

期日 8月20日(木)  
会場 新井総合コミュニティセンター、新井ふれあい会館 ほか

(事務局：新井中央小学校)

○中越地区特別支援教育研究大会  
見附大会

期日 11月18日(水)  
会場 見附市中央公民館

(事務局：見附市立今町小学校)

○下越地区特別支援教育研究大会  
村上・岩船大会

期日 11月18日(水)  
会場 村上市民ふれあいセンター

(事務局：村上市立村上小学校)

○佐渡地区特別支援教育研究大会

期日 11月11日(水)  
会場 金井コミュニティセンター

(事務局：佐渡市立加茂小学校)

**◆全日本特別支援教育  
研究連盟関係**

○第48回全特連全国大会山形大会  
テーマ

「自立と社会参加をめざし、いのち輝く子どもたち」  
特別支援教育のさらなる充実・展開を期して」

期日 10月29日(木)  
30日(金)  
会場 山形テルサ

山形市内幼稚園・小学校・中学校・山形県内特別支援学校

県内職員派遣  
第十一分科会  
生活単元学習  
(提案発表)

中川 麻子 教諭  
(新潟市立養護学校)  
功労者表彰  
本年度 県特支研前副会長

松浦敏夫(前県立高田養護学校校長)を推薦

○第42回関東甲信越地区特別支援  
教育研究協議会埼玉大会  
テーマ

「二人一人が豊かに生きる  
特別支援教育のよりよい  
充実をめざして」

期日 8月6日(木)  
会場 市民会館おみや他

県内職員派遣  
第七分科会

難聴・言語障害児への支援  
(提案発表者)

阿賀野市立保田小学校  
白井 美智 教諭

(阿賀野市立保田小学校)  
計良 由香 教諭

(阿賀野市立永原小学校)  
(司会者)

八幡寿美子 教諭  
(阿賀野市立安野小学校)

第十一分科会  
特別支援教育アーティネー  
ター・校内支援体制  
(提案発表者)

荻野 禎子 教諭  
(新潟市立松浜小学校)

(司会者)  
高岡 恵美 教諭  
(新潟市立豊栄南小学校)

**◆各部の研修予定**

知的障害部

日時 8月10日(金)  
会場 新潟県立生涯学習推進センター

自閉症・情緒障害部

日時 8月3日(月)  
会場 新潟市万代市民会館  
長岡市立中之島文化センター

言語難聴部

日時 7月28日(火)  
会場 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター  
(研修室)

病虚弱・肢体不自由部会

研修内容  
県内全域の担当者による実践を研究誌にまとめ、発行する。

# 県特支研 平成20年度 決算報告

新潟県特別支援教育研究会

## 1 収入の部

▲は収入決算増

区 分	予 算	決 算	比較増減(▲)	摘 要
会 費	1,395,400	1,417,900	▲22,500	設置校 (534) 学級数 (927) 特別支援学校本校20
啓 発 会 議 費	170,000	0	170,000	平成20年度新潟県啓発会議費なし
雑 収 入	570,000	701,047	▲131,047	教育弘済会20万円 教職員厚生財団50万円 利息1047円
繰 越 金	528,613	528,613	0	平成19年度より繰越
合 計	2,664,013	2,647,560	16,453	

## 2 支出の部

▲は支出決算増

	予 算	決 算	比較増減(▲)	摘 要
I 研 究 大 会 費	740,000	740,000	0	
1 上 越 地 区 大 会	170,000	170,000	0	
2 中 越 地 区 大 会	170,000	170,000	0	
3 下 越 地 区 大 会	170,000	170,000	0	
4 佐 渡 地 区 大 会	0	0	0	4年に一度開催、次回は平成21年度
5 特別支援学校部	50,000	50,000	0	特別支援学校助成
6 知的障害部	50,000	50,000	0	研究部研修会費
7 言語・難聴部	50,000	50,000	0	〃
8 情緒障害部	50,000	50,000	0	〃
9 肢体・病虚弱部	30,000	30,000	0	〃
II 本 部 役 員 旅 費	660,000	528,299	131,701	
1 県特支研理事会旅費	130,000	68,240	61,760	理事会5月と2月に開催
2 関プロ提案発表者等派	150,000	96,859	53,141	本年度 群馬大会 6名
3 全国大会役員派遣	120,000	118,770	1,230	本年度 京都大会 (下越 理事 2名参加)
4 会長、副会長、事務局員会議旅費	200,000	226,230	▲26,230	会長 (5月東京 8月関プロ 10月京都) 副会長 (10月京都) 事務局 (8月関プロ 10月京都)
5 地区、大会事務局旅費	60,000	18,200	41,800	上越大会、中越大会、下越大会
III 研 究 成 果 刊 行 費	125,000	113,260	11,740	
1 会 報	65,000	54,600	10,400	会報97・98号印刷製本費
2 通 信 ・ 運 搬	60,000	58,660	1,340	会報郵送費、ホームページ年間通信料2,940×12月
IV 事 務 局 費	230,000	197,559	32,441	
1 通 信 ・ 運 搬	130,000	122,838	7,162	郵送料、評議員の配布用封筒、振込手数料
2 消 耗 印 刷	40,000	38,312	1,688	事務用品、用紙代
3 会 議	15,000	0	15,000	会計監査旅費
4 名 簿 作 成 費	5,000	1,196	3,804	特別支援学級担当者名簿記入用紙
5 雑 費	40,000	35,213	4,787	理事会昼食代等 両替手数料 県教職員名簿 全国大会関プロ大会集録
V 負 担 金	255,000	256,800	▲1,800	全特連負担金 (23,28万円)、関プロ負担金 (2万円)、全情研会費 (4千円)
VI 振 興 基 金 積 立 金	100,000	100,000	0	次回関プロ大会運営のための積み立て
VII 啓 発 会 議 費	170,000	160,000	10,000	上越大会、中越大会、下越大会
VIII 予 備 費	384,013	0	384,013	
合 計	2,664,013	2,095,918	568,095	

## 3 残高の部

2,647,560円 - 2,095,918円 = 551,642円

残金551,642円は次年度に繰り越します。

上記の通り報告いたします。

平成21年4月7日 新潟県特別支援教育研究会事務局 会計担当 時田 浩子

会計監査の結果、会計及び証券書類の記載・整理等正確であり、会計に適切に処理されていることを認めます。

平成21年4月30日

会計監査

高橋 信

会計監査

池田 清治

